

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「関学総政宣言」の社会への浸透を図る	→学部独自HPの更新・利用状況、広報誌、公開シンポジウム開催回数・参加人数、オープンキャンパス参加人数、高校訪問回数	B	B	B	B	B
2. 学部の将来構想を策定する	→将来構想委員会等の開催回数、答申の有無	B	B	B	B	B
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 総合政策学部では関学総政宣言の主旨にそって、将来構想委員会等を中心に様々な課題に取り組んでいる。とくにアドミッション・ポリシーとして「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」を基本理念に、「複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見・研究、ならびに問題解決及び政策立案能力を持った人材の養成」を掲げ、理念の浸透を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 長期的視野でアドミッション・ポリシー等を設定する過程で、学部の教育理念に「共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な「問題解決能力」、「総合力」、「実学性」、「実践力」、ならびに「コミュニケーション力/プレゼンテーション力」を身に付ける」等を設定した。現在は、関学総政宣言に基づくこれらの理念の浸透に心がけている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も関学総政宣言の主旨を活かしながら、グローバル社会に貢献できる人材の養成をめざして、カリキュラム等の改善を進めるとともに、社会への浸透を図っていく。カリキュラムについては、グローバル化への対応もめざして、2017年度をめどに、改訂作業の準備にとりかかったところである。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 将来構想検討委員会等を中心に、学部開設以来の経緯をふまえながら、アドミッション・ポリシー等にそった教育研究活動の展開に向けた各種事業を計画、実施している。 ☆</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 具体的には、①2013年度から大幅なカリキュラム改正を実施した。このカリキュラム改正においては、学科ごとの教育体系を整備するとともに、リベラル・アーツ教育と専門職業人養成教育の両立を目指すものである。②学内研究会等を活発化させるとともに、リサーチ・フェアやリサーチ・コンソーシアム等の活動を通じて、教育・研究体制を充実させた。③各種刊行物や学部ホームページを通じて、学部の理念の普及や研究成果の発信に努力した。 ☆</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も学部の理念や教育・研究成果の公開に努力するとともに、学部内の研究体制を整備して、“総合政策”という新しい研究分野に関する先進的な研究を進めていく予定である。同時に、学外への社会貢献にも反映させるべく、さらに努力を重ねていきたい。 ☆</p> <p>その他 今後、18歳人口の減少等に対応しながら、総合政策の理念の普及につとめ、新たな受験者層・入学者の獲得につなげていくことを計画している。 ☆</p>
備考		<p>今後は、グローバル化のさらなる進展に対応した教育・研究体制の構築をめざす。 ☆</p>